

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室きらり桃花台校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		~ 2024年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29世帯	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		~ 2024年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 13日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士資格を持ち福祉分野の経験が長い指導員が多く、専門性が高い。個別支援計画に基づき指導員が支援内容を工夫したうえで充実した療育を提供している。	個々の発達段階や保護者のニーズに応じた活動内容を考え、季節に合わせた支援プログラムを提供している。また児発管や指導員が活動のアイデアを出し合い、互いに学び合う機会を設け、創意工夫された支援プログラムを提供している。	きらり内の研修を積極的に受けたり、他事業所の研修に参加し、自己研鑽に励んでいる。また、本やインターネットなどの情報を積極的に取り入れ、職員間でも良い教材や活動内容を共有し、利用者の発達段階に合わせて活動に取り組めるように支援していく。
2	広い療育室で支援を提供できる。	個別療育で使用する各部屋が広く、机上の活動だけでなく、粗大運動やサーキット遊びなども個に合わせて行うことが出来る。また、他児の影響を受けることなく指示を聞くことが出来る環境にあり、落ち着いて活動することが出来る。	一番広い独立した部屋を皆が使えるように職員間で話し合い、一部の利用者に偏らないよう心がけている。
3	保護者や利用者寄り添った支援や家族支援の提供。	保護者の送迎でのご利用のため、毎回顔を見て話すことが出来、支援の後のフィードバックを丁寧に行っている。その際、保護者からのお悩みやご相談を伺うことが多いため、その都度対応している。また、必要に応じて主に児発管が時間を設けて保護者のご相談を伺い家族支援を行っている。	保護者からもっと気軽にご相談できるようにこちらからお声をかけたり、進学や進級のタイミングにお話を伺う機会を設けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	塾のイメージが強く、主に宿題を見てくれる場所、もしくは学習のサポートをしてくれるところだと認識されている。	療育として何が出来るか、またその必要性が利用者にあるかを見極めながらご利用していただく。	必要に応じて希望者にご見学いただく機会を設け、利用者に合わせて支援内容が提供できるようにご説明する。また、子供連絡会などで、事業所で様々な支援内容に取り組んでいることをアピールしていく。
2	駐車場の狭い。アスファルトが陥没しているため、止めにくい箇所がある。	ご利用時間が重なる時、駐車場の車の入れ替えなどで危ないことがある。また、止められない時は路上駐車等近隣住民の車の通行の妨げになることもある。	手の空いた職員や管理者が交通整理を行い、事故を防ぎ、他の利用者や近隣に迷惑がかからないような対応を心がけている。
3	地域との交流が薄い。	校舎内で活動しているため、外出する機会がなく、他事業所や児童館などとの交流がない。	市役所や交流センター、園や他事業所などにきらりのことを理解していただき、興味のある保護者にご見学や体験の機会をお知らせしていく。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」桃花台校
------	--------------------

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 36名 (29世帯)

回収数 29

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	27	2			間仕切りで声が筒抜けなのが気になる。 広い部屋が多く、身体を存分に動かす活 動が出来るので楽しそう。	間仕切りで仕切られている部屋は、声や音で 気が散りやすいこともあるため、使用する部 屋が備らないようにし、同じ時間に静かに学 習したり運動するように配慮している。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	27			2	適切である。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	3		1	支援室に手洗い場があるとよい。	クッキングや制作などの活動で手が洗え ない時は、ウエットティッシュや消毒液 で対応している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	1			よく掃除してありきれい。	始業時に職員全員で掃除や消毒を行って いる。また支援の前後に部屋が片付いてい るか、消毒を兼ねてチェックしている。
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	29				とても良く見てくれていると思う。今後も クッキングを楽しみにしている。いつも子供 の好きなことを把握していただき支援に取り 入れて頂いて感謝している。	今後も利用者の特性や発達段階に応じた 楽しめる支援を行って行く。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	28	1			本人に合ったプログラムを考えていた き有難い。	今後も様々な活動を取り入れて発達段階 に応じて支援していく。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	28	1	も っと 気 軽 に ご 相 談 で き る よ う に		その時その時でこどもに合った対応、学 習、遊びを取り入れてくれています。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思 いますか。	29				具体的な支援内容が設定されている。	支援計画を作成する際、こどもの発達段 階に応じて具体的な支援内容を設定して いる。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	26	1		2	一つの活動が達成できた次の段階に進 み、飽きないように変化をつけてくれ る。クッキングも楽しみにしている。	季節に応じた行事や活動に変化をつけ ながら、楽しめる支援を行って行く。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会 がありますか。	8	7	10	4	そういった活動支援は目的としない と思う。それが必要だとは思わない。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	28	1			説明があったと思う。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	29				説明を聞いた。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	16	10		3	支援後のフィードバック時に親と課題を 共有してくれることで、今後の家での生 活のヒントになる。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていますか。	29				困ったことがあればご相談でき、お話を 聞いてくれる。いつも詳しく活動内容を 伝えて下さり有難い。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	26	3			児発管とのお話で保護者のストレスが軽 減されると思う。聞いてくれるだけで気 持ちの整理が出来スツキリする。感謝し ている。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28	1				利用者や保護者に常に寄り添った支援を 心がけていく。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	12	7	5	兄弟参加可能なものがたまにあると嬉し い。保護者同士の交流会はないかもしれ ないが、兄弟同士は行っている。	ペア活動、小集団の活動の時に保護者の 方にご見学、ご参加いただき交流の機会 を設けている。	

	19	ごどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、ごどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	1		1		ご相談などの対応は迅速に行い保護者の不安が早く解消するようにしている。
	20	ごどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	1			個別に特性を理解しようとしてくれるので有難い。	
	21	定期的な通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をごどもや保護者に対して発信されていますか。	14	6	1	8	LINEの発信も定期的に行ってほしい。	緊急時だけでなくLINEでのご連絡を継続していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	5	2	3	避難訓練は掲示物で知ることが多いが、全体に向けての周知をもう少ししてもよい。	曜日や時間を変えて避難訓練に利用者が参加できるようにし、全体への周知も行っていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	3	1	4		全体への周知を定期的に行っていく。
	25	事業所より、ごどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	27	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	2		1		
満足度	27	ごどもは安心感をもって通所していますか。	29				楽しく通えている。きらりを通じてたくさんのお手が出るようになってきた。感情が出せるようになり、先生方に安心、信頼しているんだと感じる。	
	28	ごどもは通所を楽しみにしていますか。	28	1			とても楽しみにしている。苦手な活動は嫌だなど言いながら帰ってくると達成感で嬉しそう。保護者の希望通り本人の居場所に一つになっていて心強い。クッキング等様々な活動があり、休むことなく通えている。担当の先生が大好きであるために甘えが過ぎて困らせて申し訳ない時もある。	今後も継続して楽しくご利用していただけるよう、職員一同頑張っていきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	29				子供にも保護者にも寄り添っていただけている。本人を受け入れて頂いているので嬉しい。小学生になってみきらは辞めたくない、成長も感じられて有難い。	利用者や保護者の言葉を励みにこれからも頑張っていきたい。

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」桃花台校		公表日		2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		適切である。利用者や活動内容に応じて部屋を使用している。	パーティションで区切られた部屋は、他児の声が気になる場合があるため、互いが刺激にならないように配慮する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		適切である。職員の欠席の対応がしやすく追加の支援や振替を早めに考えられるようになった。	職員が欠席をしてご迷惑をおかけしないよう体調管理に気をつける。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		入口の段差や2階への階段はあるが、移動する際には職員が見守ったり手を繋いで安全に配慮している。	常に安全面に最新の注意を払い、利用者の突如の行動に対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		玩具などが利用者の目に触れないよう、布などをかけて目隠しをし、集中して取り組めるように配慮している。	朝に全体の掃除と消毒を行い、支援の前後には部屋が片付いているかどうかの確認や、空気の入替えや消毒を行なっていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個別支援を常に行い、担当指導員の指示を聞いて活動出来る環境を整えている。	様々な活動に合わせた設定をしたり、協力して片づけを行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者様のご意見を踏まえて改善出来ることはすぐに取り組んでいる。	保護者のご意見を踏まえた上で取り組めることから改善していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者からもっと気軽にご相談できるようにこちらからお声をかけたり、進学や進級のタイミングにお話を伺う機会を設けていく。	職員の意見を日常的に把握し、業務改善に繋げていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		支援に支障がないように調整しながら職員が研修を受けやすい環境づくりを心がけている。	社内外の研修を積極的に受けられるように調整していく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		適切に支援プログラムを作成している。	利用児の発達段階に合わせた支援プログラムを適宜作成していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者のニーズと利用者の課題を把握したうえで支援計画を作成している。	今後も発達段階に合わせたアセスメントを行い、支援計画に反映させていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		利用者の発達段階や成長に合わせて計画を見直し、現在の状況に応じたものを作成している。	担当者会議を設け、支援内容や今後の見直しについて話し合い、支援計画を作成していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員間に共有したうえで、計画に沿った支援を心がけている。	計画に沿った支援が適切に行われているか、見学し指導員に助言を行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		標準化されたアセスメントを使用し確認している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		現在の様子を踏まえて活動を行い、本人やご家族支援だけでなく、今後移行や地域で生活していくまでのイメージを持ちながら支援を行っている。	利用者の支援に必要な項目と具体的な支援内容が設定されているか確認していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		小集団やペア活動などでは定期的に話し合っている。	利用者に合わせてプログラムの立案を行っていく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節に応じた活動や子どもの発達段階に応じて活動を工夫している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別支援が主だが、小集団活動が出来る時にはねらいと目的を持って支援を行っている。	個別の課題と小集団での課題やねらいを明確にして支援を行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		必要に応じて話し合っている。	打ち合わせの時間を設け、必要なことを情報共有しながら連携して支援を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後、もしくは翌日に打ち合わせや振り返りを行い次回に活かせるように話し合っている。	振り返りを行い、課題や反省を職員間で共有して行く。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		記録入力に遅れがないように個々で取り組んでいる。	記録を早めに書くように声をかけ、記録のチェックを行なっている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的な見直しとモニタリングを行っている。	その他、必要に応じて見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		利用者の発達を理解した上でやっている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		答えを選択して伝えられるように考えを引き出したり自分の気持ちを相手に伝えられるように関わっている。	支援者の考えの押し付けにならないように配慮して行く。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		主に児発管が参加し、情報を共有している。	参加した際に得た情報を職員にも共有して行く。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	社協主催の子供連絡会などで連携を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	送迎がないため、特に行っていない。	部活や学校行事など、予定表を保護者からいただき保護者と情報を共有することもある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	必要に応じて情報共有を行っている。	今後も必要に応じて連携を行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	現在該当する利用者がいないが、必要に応じて連携を行っていく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	必要に応じて研修などの機会に意見交流や助言をいただき勉強している。	今後も研修などの機会に積極的に参加して行く。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		6	今のところ行っていない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	主に児発管が参加している。	児発管だけでなく、他職員の参加も出来るようにして行く。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		個別支援のフィードバック時に保護者に利用者の状況を伝え、様子を共有している。	短時間でなかなか話せない時は、児発管と別日に改めて相談日を設けることもある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	必要に応じて行っているが、全体に向けての取り組みは現在行っていない。	対象のご家族に向けて研修などの情報提供を行っている。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時や説明が必要な時に行っている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		本人が通いたいという意思を持ち、能動的に活動に取り組めるように支援している。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		契約時に行っている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要は助言と支援を行っているか。	6		必要に応じて行っている。保護者からのご相談だけでなく、こちらから気になる場合もお声掛けして面談を行っている。	保護者のご相談や家族支援の機会を積極的に設けていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	4	現在父母の会は行っていない。兄弟同士の利用者がいる場合は、時々一緒に活動し交流をしている。	父母の会をいざ行いたいと思っている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情になる前に日頃から保護者とコミュニケーションを取るようになっている。	苦情があった場合は、職員に周知し、改善できるように対策を講じる。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		ブログを定期的に更新し、活動内容を発信している。	広くブログの周知をし、利用者だけでなく周りにもっと発信できるとよい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		掲示物や実績記録票は名前が目につかないように留意している。	同じ学校や園の利用時間が重ならないように心がけている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		簡潔に分かりやすく伝えたり、実物や書面で伝えるようになっている。	場合によって前日に確認のご連絡をしたり、保護者に周知を徹底している。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	行っていない。	個人情報の問題もあるため難しい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		行っている。全体に向けての避難訓練は難しいため、一部のご利用時間に訓練を行い掲示物で周知している。	出来るだけ多くの利用者や保護者に周知出来るようにする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		普段の避難訓練に加えて非常災害の発生をイメージし職員の動きを確認している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時や新学期、利用者の状況が変わった時等随時確認している。	保護者からの聞き取りで部屋の温度調節などを行うこともある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	クッキングなどの活動では、事前に保護者にアレルギーなど確認し安全に取り組めるよう配慮している。	保護者からの聞き取りで対応している。飲食を伴う活動にはその都度確認していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画に基づき、安心して活動が行われるように必要な研修を行っている。	安全管理に必要な研修の機会を設け、具体的な訓練を行い、職員が不測の事態に対応できるように心がけていきたい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約時に説明している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		安全に活動出来るように設定を工夫し見守っているが、万が一ヒヤリハットが発生した時は職員間で周知し再発防止につとめている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		行動だけでなく、言葉かけや利用者との接し方についても見守り、職員に適切な関わり方を周知している。	支援中や校舎内における言葉遣いや態度、関わり方について起きた事例を踏まえて自分の行動を振り返る。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時や子供の状況に応じて必要になった時、保護者に十分説明しご了承いただいている。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」桃花台校第二単位		
○保護者評価実施期間	2024年11月25		2024年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2024年11月25日		2024年12月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月11日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育 お子さま一人ひとりの発達・行動面に合わせた個別支援計画を作成してマンツーマンによる個別支援に取り組んでいる。(成長度によって集団療育の実施もあり)	マンツーマンの個別指導で、子供たちの成長・発達した部分を見つけることができ、小さな変化に対して「褒める」ことができそれが、「褒められる経験」「成功体験」となり「自己肯定感」を高めるようにしている。	常にスタッフ間で情報を共有化することにより、柔軟な支援プログラムを構成し提供していく。支援後保護者にフィードバックすることで自宅での生活習慣の充実を図るようご家庭での支援技術のアドバイスに取り組んでいく。
2	ハイブリット教室 ブラジル人スタッフを配置して、言葉の壁をなくすことで保護者やお子さまに安心して通所してもらっている。	支援計画書・専門的支援等をブラジル人スタッフが分かりやすく保護者に説明、普段のフィードバックも実施。日本人スタッフのフィードバックの際は写真などを使って説明している。	ホームページやSNSを通して取組み内容を発信することで事業所周知に取り組んでいく。
3	広い支援室 他事業所に比べると支援室が広く、子どもがのびのびと安全・安心して活動することができる。	イベントの際壁を取り払うなどして、その都度支援に合わせた間取りにする工夫をしている。	子どもに合わせた教材を用いての支援を考え、より安全・安心な支援場所を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ブラジル人校舎と思われており、日本人の方の問い合わせが少ない。	周知活動不足。	社会福祉協議会や相談支援事業所に訪問して周知活動を行う。ホームページやSNSの活用。
2	地域や他事業所との交流が少ない。	一部の学校や事業所との交流はあるが、外部との窓口を広げることが足りていない。	児童発達支援センターが主催する研修等に参加しているのでそこから輪を広げていく。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催が行われておらず、保護者同士の交流の機会が設けられていない。	父母の会や、保護者会の開催の機会を設けていないため、積極的なアプローチ不足となっている。	イベントの際、利用者の兄弟も招待するなどの対応をいずれ取り入れていきたい。また、同様にイベントの開催中に、別室で保護者の方々の交流機会を設けるなどの対応もいずれ取り入れていきたい。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ともサポート教室「きらり」桃花台校第二単位

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 25名

回収数 24件

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24					支援内容によって支援室を変えるなどの工夫をしていく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22		1	1	言語聴覚士の配置	現段階で即座に対応はできないが、いずれ取り入れていきたい
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	3			教室内はシンプルで物が少ないため動きやすいと思う。2階の際は階段もあるためバリアフリー化できていない	子どもの安全を第一にし、手をつないだり、ゆっくり歩くことを伝えながら事故防止を心掛けていく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	3				フィードバックの際、支援を見てもらい、参考意見を取り込んでいく。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	3		1		フィードバックや家族支援の際、疑問点などを聞き、支援に反映できるように取り組んでいく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	3		1		フィードバックや家族支援の際、疑問点などを聞き、支援に反映できるように取り組んでいく。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	3				普段からニーズや課題について共有し支援に取り組み分析していく。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	3		1		説明時に齟齬がないよう確認、疑問点があれば修正していく。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	3			家族支援が足りない	随時支援見学をしてもらうことで、支援内容の確認をしてもらいご意見を伺う。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	2				フィードバックの際、支援現場を見てもらい、参考意見を取り込んでいく。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	3	4	6		いずれ取り組んでいく。
保護 者へ の 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	1				継続する。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24					継続する。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	2	3	8		いずれ取り組んでいく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	21	3				フィードバックだけでなく、見学も随時行っていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	4		3		フィードバックや支援見学等で行っているが、家族支援の機会を増やしていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	2				概ね、共感的に支援ができていようだが、利用者全体にご満足いただけるよう職員一同取り組んでいきたい。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	8	2	3	11		イベントの際、利用者の兄弟も招待するなどの対応をいずれ取り入れていきたい。イベントの開催中に、別室で保護者の方々の交流機会を設けるなどの対応もいずれ取り入れていきたい。	



	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	4		2		周知していく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	3				ポルトガル語に訳した文書等での周知や意思の疎通を図る。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16	1	2	5		発信できるよう取り組んでいきたい
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	4				研修等を行いさらに留意できるようにしていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	2		5		保護者にわかるよう可視化や周知をしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	1	1	6		参加できるよう定期的に開催していく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	2		3		保護者にわかるよう可視化や周知をしていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	2		4	まだ一度も事故等にあつたことがないため	保護者にわかるよう可視化や周知をしていく。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	24					より安心感を持ってもらえるよう支援に取り組んでいく。
	28	こどもは道所を楽しみにしていますか。	21	3				子どものニーズを確認しながら、楽しめる支援に取り組む。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	3			治療が継続するためには包括的な支援が必要	多職種連携も考慮に入れて活動できるよう努めていく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こどもサポート教室「きらり」 桃花台校第二単位		2025年 2月 15日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	集団療育や支援内容によって支援室を区切るなど、工夫をして使用している	同一時間で4人利用が3~4回/週程度ある支援室3 体を動かす支援が行えない時があり日時調整の必要性がある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5		シフトや有休等をうまく組み合わせて配置をしている 現在は1日3人以上配置	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	子どもの安全を第一にし、手をつないだり、ゆっくり歩くことを伝えながら事故防止を心掛けている	階段があるためバリアフリーではない 不自由な場合は1階を使用するなどの対応が必要
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	必要に応じて部屋の仕切りを外し、ゆったりと活動ができる空間を作っている	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		同時間支援の際、子供の支援内容により部屋分けをしている	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	2	月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行って参画している	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者へ支援内容のフィードバックする際に把握したことを職員間に落とし込み改善につなげている	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	事業所評価等での意見を参考に業務改善に努めている	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		全体研修や階層別研修の実施 事例検討会など様々な研修に参加できる機会をを設けて参加している	
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		モニタリングや保護者とのフィードバック・支援記録等を通して適切に対応、保護者にも報告・確認をしている	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	1	支援計画を作成する際は職員間で話し合い、それをもとに児発管が作成している	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		共有は月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行って支援に反映している	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	3		インフォーマルなアセスメントは使用していない
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	5	具体的な支援内容を設定するうえで、普段から支援内容や課題の情報を共有するように取り組んでいる。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		イベント（季節行事）や集団活動では企画会議を行い取り組んでおり、必要に応じてその都度共有している	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		担当スタッフを変えるなど、多数の目で見るようにしている このため常に情報を共有するようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		年齢層を合わせるなど工夫をして実施している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		計画の見直しの必要性があれば話し合い、検討している（保護者の意見も聞いて）	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			地域交流の機会や、余暇の提供も支援に組み込んでいく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		支援をする際いくつかの選択肢を与えている また複数の選択をした場合自ら時間設定をするような支援を心掛けている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		ブラジル人スタッフもいるため聞き取りをして会議に出席している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	必要な時に適宜行っている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2	3	学校行事については、HPや保護者の方に話を聞くことで把握している	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	必要な時に適宜行っている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2		該当者なし 今後該当者がいれば対応する
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	児童発達支援センターが主催する研修等に参加するようにしている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		現在活動する機会もっていないが、今後機会があれば交流等を行っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2		実施していない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		毎回支援後に時間の許す限りフィードバックや家庭内での様子を確認している	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	フィードバックの際に周知するだけでなく見学も実施している	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明 運営規定は常時閲覧できるようブックスタンドに設置されている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		アセスメントで確認 常にフィードバックを行うことで確認している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		計画更新の際同意を得ている ポルトガル語での対応が必要な際は、ブラジル人スタッフの指導員に説明をしてもらっている	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		フィードバックの際、保護者から相談を受けたときは、時間と場を設けて対応している	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		開催していないが、今後計画して行う
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者から相談を受けたときは、時間と場を設けて対応している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	1	メール等を利用して発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きの書庫に保管をしている 使用しているPCは離席する際他者から見られないよう配慮している	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		言葉遣いなど、保護者様の立場に立ち配慮して行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3		実施できていないので機会があれば行っていく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアル策定年間スケジュールを作成、全社研修を行っている 訓練も実施 子どもも参加	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		策定 訓練も実施	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		持病がある子どもの情報は職員間で共有し、来所時に体調確認を行っている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	通常、食事の提供はないが、状況に合わせた対応ができるようスタッフ間で共有している 特にイベントの際は再度保護者に確認	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		作成 研修の実施	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			周知するとともに、支援見学を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット報告書を作成 事業所内周知（回覧）を行っている スタッフミーティングでも共有	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に全社で研修を実施、適切な対応をしている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			現在、身体拘束の対象者はいないが、必要があれば相談して検討していく	